新学習指導要領において、「言語活動の充実」が重視されています。今年度の学校訪問においても、「言語活動の充実」についての話題が数多く出されました。
そこで、社会科における「言語活動の充実」について、授業づくりを中心に考えていきたいと思います。
第１回目の今回は、「言語活動の充実」のための「学習課題の設定」について掲載しますが、その前に社会科における「言語活動」について、いくつか確認したいと思います。

☆　社会科における言語活動とはどのような学習活動か？

中央教育審議会答申（平成２０年１月）では、下の４つの活動が代表的な活動として提示されている。これらの活動を実際の授業において取り入れることが、児童生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成することにつながっていくと考えられる。

○「読み取り」　地図や統計など各種の資料から必要な情報を読み取ること

○「解　釈」　社会的事象の意味、意義を解釈すること

○「説　明」　社会的事象の特色や事象間の関連を説明すること

○「論　述」　社会的事象についての自分の考えを論述すること

☆　実際の授業に取り入れておいて展開する際の留意点は？

社会科における「言語活動」とは、「目的」ではなく「手段」である。

言語活動の目的は、知識や技能を活用して課題を解決するための「思考力・判断力・表現力」を養うことである。ただ単に資料を活用してレポートを作成したり、発表したりするなどの「活動ありき」の学習になることのないように留意することが大切である。

第１回　～ 言語活動の充実に向けて ～
思考力・判断力を養う「問い」のある課題設定の工夫とは？

（１）何のための学習課題か・・・「目標の理解」「意欲の高揚」

○　授業における学習の目標（ねらい）を理解させる

○　学習への興味・関心や問題意識を高め、主体的に学ぼうとする意欲を育む

（２）よい学習課題とは・・・学ぶ「必要感」を感じる課題

○「活動目標」的な課題とは？

「～しよう」「をまとめよう」「～を調べよう」「～について考えよう」

・ねらいがあいまい、まとめの不明瞭、教師からの呼びかけ（教師主体）

○「問い」のある課題とは？

「だろうか？」「どうすれば～か？」「なぜ～なのか？」「Ａか？Ｂか？」

・ねらいが明確、まとめに活用、調査等の活動が必要（児童生徒が主体）

※　その他の条件とは？

○　身近に感じたり、それまでの学習で身に付け知識や技能を活用できる
○　自分なりの疑問・矛盾・ズレ・こだわりを見いだすことができる
○　自分なりに選択・決定するなど学習の見通しや予想をもつことができる
○　課題を追究する中で多様な考えが生み出され、多様な方法で表現できる
○　他の考え、他の資料との関わりを広げ、さらに深めることができる

※　実際の課題例

「活動目標」課題	「問い」のある課題
●コンビニの秘密について考えよう！	○なぜ、コンビニは店が小さいのにたくさんのお客さんが訪れるのか？
●世界各地の伝統的な生活について調べよう！	○世界各地の伝統的なくらしが、地域によって大きく違うのはどうしてか？
●鎌倉時代の文化の特色についてまとめよう！	○鎌倉時代の文化は、他の時代と比べてどのような特色をもっているか？
まとめをどうするかが不明瞭で、着地点があいまいである。	まとめとして「問い」に対する自分なりの考え（答え）をノートに記述させることで、課題解決を図る。

（３）課題設定のための準備としては・・・「ねらい」「実態把握」

○　児童生徒に身に付けさせたい資質や能力を具体的にイメージする
○　単位時間の目標を明確にする
○　目標に対する児童生徒の実態を十分把握する
・各種調査、アンケート、イメージマップ等の活用
○　学校、学年、学級の課題等も十分把握する
・既習事項（体験・知識・技能等）の確認
・学級の人数、男女比、人間関係等（話し合い活動をするための基盤）